被災地方言の記録と保存

田附敏尚／川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科専門研究員）
椎名渉子／内間早俊／佐藤亜実（東北大学大学院文学研究科大学院生）

目的

Ⅰ　被災地の方言を取り扱った文献・資料の収集・整理　⇒　文献目録の作成
Ⅱ　目録をもとに被災地の方言研究の現状を把握　⇒　今後の研究活動についての提案

被災地方言研究文献目録の作成（目的Ⅰ）

調査資料
- 方言文献目録、年鑑
- 市町村史
- 学術文献データベース

など

調査場所
- 東北大学附属図書館
- 国立国語研究所図書館
- 国立国会図書館
- インターネット　　など

書籍・論文等約 700 件を収集

研究手法・対象分類
《記述的研究》《地理的分布》《世代差》
《グロットグラム》《共通語化》

内容分類
音声；（音声、音韻、アクセント、イントネーション、その他）
語彙；（意味・用法、その他）
方言集
文法；（文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、その他）
言語行動；（談話分析、表現など）
待遇表現；（敬語、その他）
談話資料
その他；（方言意識など）

分野別に集計

表１　被災地域の研究概要

県＼分野	音声	語彙	方言集	文法	言語行動	待遇表現	談話資料	その他
青森	34	37	28	34	0	9	3	18
岩手	49	31	31	33	8	13	7	18
宮城	61	48	81	48	18	10	8	17
福島	37	30	42	29	1	14	1	29
茨城	9	23	14	7	1	1	4	5
千葉	16	40	47	19	1	2	6	5

文献目録例：
宮城県文献リスト（論文）

No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
1	研亭主人	1899	東京仙台方言くらべ拾遺	風俗画報196	12-13	仙台市	《記述的研究》方言集	
6	蘆の円屋	1915	仙台方言	風俗画報471	31	仙台市	《記述的研究》方言集	
14	小林英夫	1932	仙台方言音韻論試作	方言2-11	13-58	仙台市	《記述的研究》音声（音韻）	
17	菊沢季生	1934	宮城方言文法の一斑	国語研究2-4	60-91	石巻市、牡鹿郡、亘理町（荒浜村）、仙台市	《記述的研究》文法（文法概説）	「浜荻」や「方言達用集」、方言調査報告、地誌等の記述を筆者が概略的にまとめたもの。
36	横山辰次	1955	仙台ことば	言語生活51	74-75	仙台市	《記述的研究》語彙（意味・用法）	仙台市で使われている語を、東北方言、特に山形県置賜地方の方言と比較したもの。
50	佐藤亮一	1968	宮城県北部におけるアクセントの一側面―語単独の相と助詞を付けたときの相との違いに関して―	聖和7	69-95	気仙沼市（気仙沼市、本吉町）、南三陸町（志津川町）、石巻市（河北町、北上町）、東松島市（矢本町）、松島町、仙台市	《地理的分布》音声（アクセント）	気仙沼市（字九条、字岩月台の沢）、本吉郡本吉町（大沢、小浜）、本吉郡本吉町、登米郡東和町、登米郡登米町、本吉郡津山町、桃生郡河北町、桃生郡北上町、登米郡迫町、栗原郡金成町、栗原郡若柳町、栗原郡栗駒町、玉造郡岩出山町、玉造郡鳴子町、加美郡中新田町、桃生郡矢本町、宮城郡松島町、黒川郡大衡村、黒川郡富谷町、宮城郡泉町、仙台市北山、仙台市郡山北目宅地の24地点。参考として岩手県南部の4地点も調査。
60	加藤正信；佐藤和之；小林隆	1982	宮城県北地方の方言調査報告	日本文化研究所研究報告(東北大学)別巻19	左1-28	石巻市（北上町、雄勝町、牡鹿町、河北町）、東松島市（鳴瀬町）	《記述的研究》音声（音韻）／語彙（意味・用法）／文法（助詞／文末形式・文末表現）／待遇表現（敬語）	宮城県北地方20地点（桃生郡、牡鹿郡、登米郡、本吉郡、遠田郡、栗原郡、志田郡、玉造郡、加美郡のなかで20地点）
61	齋藤友季子	1985	国学院大学図書館蔵「奥州仙台こと葉いろは寄」について考察と翻刻	国学院雑誌86-7	17-35	仙台市	《記述的研究》方言集／その他（異本比較）	小倉本・叢書本・國學院大學所蔵本を比較し、校異を示している。翻刻もなされている。
71	小林隆	1995	変容する日本の方言-仙台市 住民意識に見る方言志向・共通語志向	言語24-12	34-46	仙台市	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》その他（方言意識）	
75	李範錫	1997	仙台無型アクセント方言話者におけるイントネーションとフォーカス	国語学研究(東北大学)36	左13-21	仙台市	《記述的研究》音声（イントネーション）／言語行動（談話分析）	
77	大橋純一	1997	東北方言における/ki/の地理的・年代的諸相と展開　/k/子音と/i/母音との関連性に着目して	言語科学論集(東北大学)1	15-26	山元町	《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《グロットグラム》音声（音声/音韻）	
84	半沢康	1999	東北地方の地域方言と社会方言	日本語学18-13	176-184	亘理町、山元町、岩沼市、名取市、仙台市	《グロットグラム》音声（音韻）／文法（テンス・アスペクト/文末表現・文末形式/助詞/その他）	宮城県北部から福島県いわき市にかけてのグロットグラムや、福島県・宮城県のグロットグラムを用いて方言変化の様子をみたもの。亘理町（逢隈、浜吉田）、山元町（上平、中浜、磯浜）、岩沼市（岩沼）、名取市（名取）、仙台市（南仙台、仙台、泉）
101	玉懸元	2001	宮城県仙台市方言の終助詞「ッチャ」の用法	国語学205	30-43	仙台市	《記述的研究》文法（文末形式・文末表現）	
129	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4（東北大学文学会）	左58-77	気仙沼市、南三陸町、石巻市、松島町、仙台市、名取市	《記述的研究》《地理的分布》語彙（その他（語史））	
148	小林隆・澤村美幸	2012	驚きの感動詞「バ」	宮城県・岩手県三陸地方南部地域方言の研究（東北大学国語学研究室）	165-188	気仙沼市	《記述的研究》語彙（その他（感動詞））	気仙沼市（唐桑・鹿折・気仙沼・大島・本吉郡本吉町）・南三陸町（本吉郡南三陸町）・石巻市におけるアバ系感動詞の分布にも少し触れている。

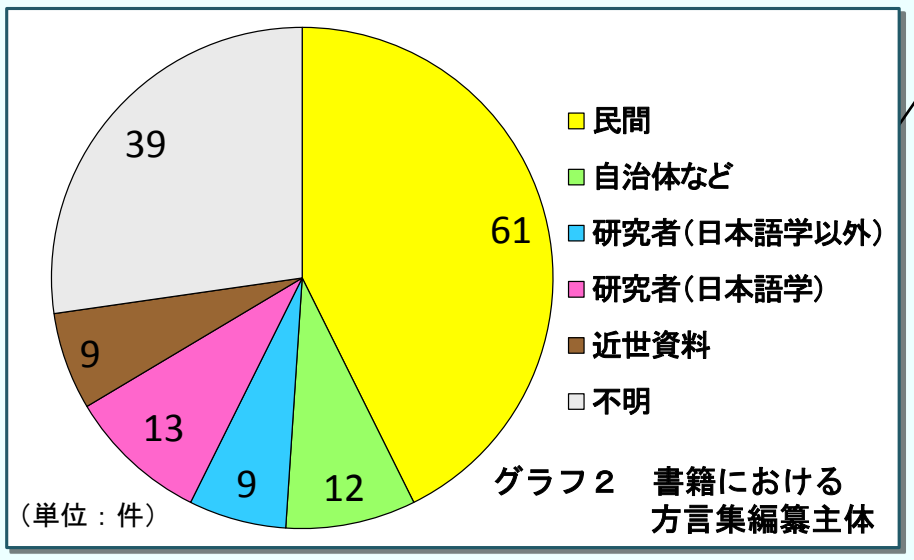
◆被災地方言研究文献目録掲載ウェブサイト
東北大学方言研究センター（2012）『文化庁委託事業報告書：東日本大震災において危機的な状況が危惧される方言の実態に関する予備調査研究』東北大学国語学研究室
（http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/kokugo_sisaku/kikigengo/index.html
報告書第Ⅰ部 東日本大震災の中の方言）

①各県の研究分野別特徴

青森～福島
音声・語彙・方言集・文法の分野に比べて言語行動・待遇表現・談話資料の分野が少ない

茨城・千葉
言語行動・待遇表現・談話資料は同様に少なく、青森～福島に比べると音声や文法も少ない

地元主導による方言集の編纂と研究者の役割



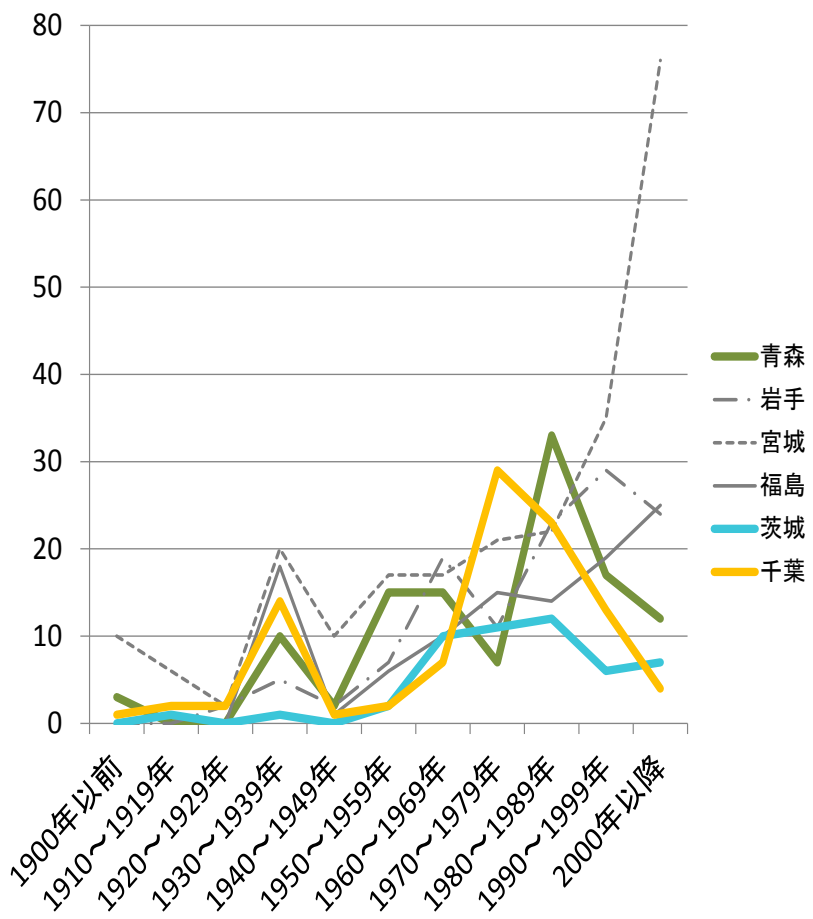
グラフ２　書籍における方言集編纂主体

方言集　：　筆者・編者は主に　研究者以外の民間の方々
自治体や市町村、教育委員会など
⇒方言への関心が高い地元の人の手によって編まれたものが多い
||
地元主導による方言に関する取り組み

研究者：地元の取り組みを把握
補える点をフォロー

利用価値、保存価値の高い研究成果

研究の概要と課題（目的Ⅱ）



グラフ１　被災地の研究件数の推移

表２　岩手、宮城、福島三県の研究状況

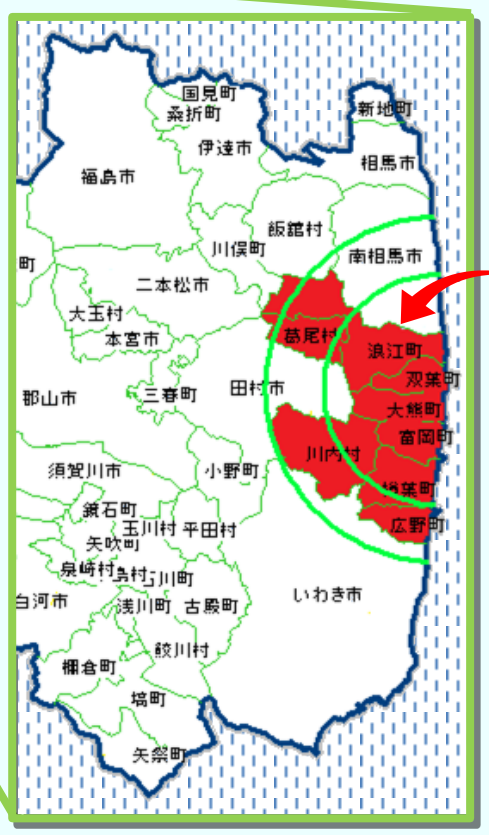
岩手県		宮城県		福島県	
洋野町	18	気仙沼市	42	新地町	6
久慈市	22	南三陸町	18	相馬市	20
野田村	11	石巻市	45	南相馬市	24
普代村	10	女川町	7	伊達市	12
田野畑村	9	東松島市	9	飯舘村	3
岩泉町	12	松島町	11	川俣町	4
宮古市	34	利府町	8	浪江町	10
山田町	22	塩竈市	6	双葉町	7
大槌町	18	七ヶ浜町	1	大熊町	6
釜石市	19	多賀城市	8	富岡町	8
大船渡市	28	仙台市	116	楢葉町	5
陸前高田市	17	名取市	8	葛尾村	3
		岩沼市	4	川内村	1
		亘理町	11	広野町	4
		山元町	10	田村市	8
				いわき市	27

②年代ごとの研究件数推移

・岩手県、宮城県、福島県⇒増加傾向
（2000 年以降の研究蓄積も多い）
・青森県、茨城県、千葉県⇒**減少傾向**
（1970, 80 年代をピークに近年の研究が少なくなっている）

③同一県内の地域的な研究の偏向

岩手県：野田村、普代村、田野畑村、岩泉町の研究が久慈市、宮古市、大船渡市などに比して少ない
宮城県：仙台市と石巻市の間にある市町村、仙台以南の研究が少ない
福島県：特に双葉郡の研究が少ない



福島県双葉郡の例
地理的調査やグロットグラム調査が多く、基礎的な記述研究はきわめて少ない

相馬方言、いわき方言の境界に位置する当該地域は基礎的な研究も必要な地域

研究の継続性という観点から問題あり

さらに…
災害により地域住民が各地に避難
↓
当該地域方言が継承されない恐れも

課　題

年代的・地域的な研究の偏りを減らす取り組みを早急に行う

今できること

話者に負担をかけない調査
↓
自然談話資料の収集

方言をありのまま記録するという点からも重要